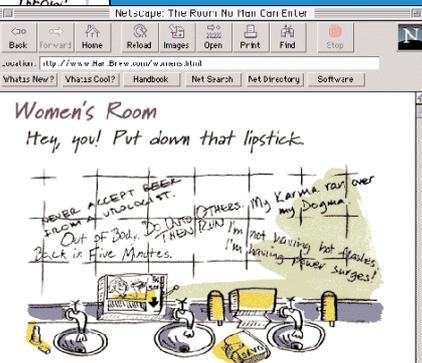
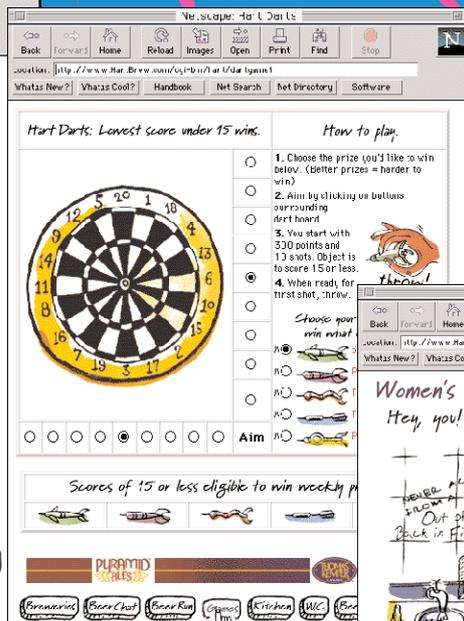
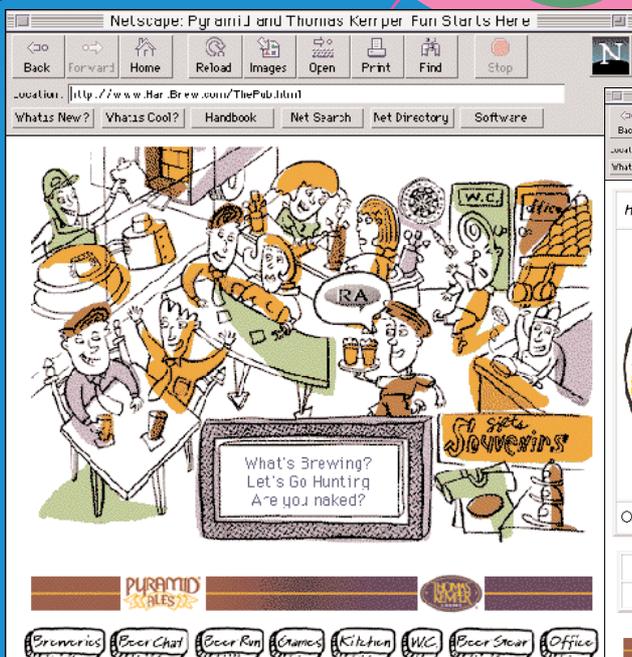


# What's Cool

今泉 洋の



wwwFirst off, our Web Site really only works with the Netscape browser. Apologies to our friends at AOL. You should also grab a copy of the RealAudio Player so you can take our audio tours and listen to our brewmasters (available wherever you see the RealAudio "RA" speech bubble). A couple of other things: A tip of the hat to Mark Widmer for his wonderful scripts and database formatting, to Mark up late, and to Mark Widmer for his wonderful that, while we're all in favor of the consumer, you, to insibe responsibly and let someone send them to our webmaster. Host@HartBrew.com

カフェより新しい? 自家製ビールでバーチャルパブ  
Give us a click and c'mon in

URL <http://www.HartBrew.com/>

今や日本全国に広がっているインターネットカフェ。しかし、90年代のもう1つのトレンドは自家製ビール。インターネットとホームページのほうがピンとくるというので、バーチャルパブを作ってしまったのが米シアトルのハート・ブリューイング社だ。入り口をクリックして中に

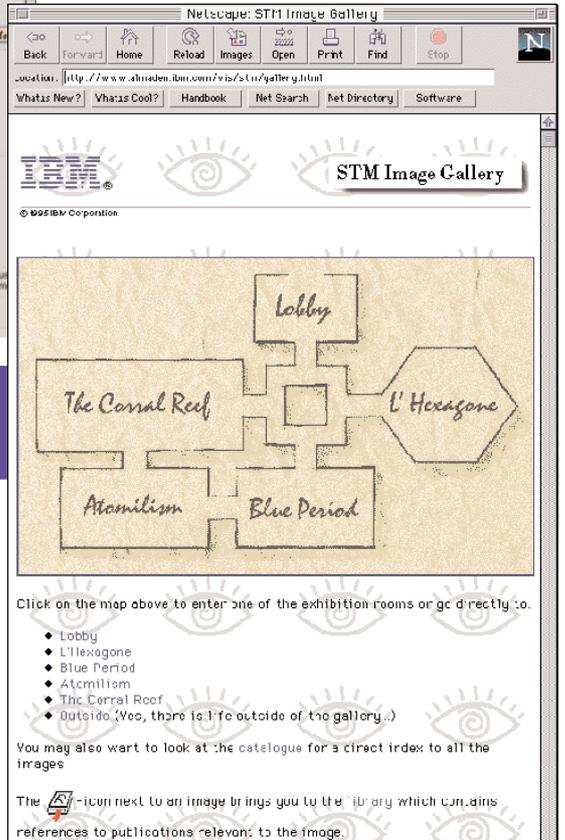
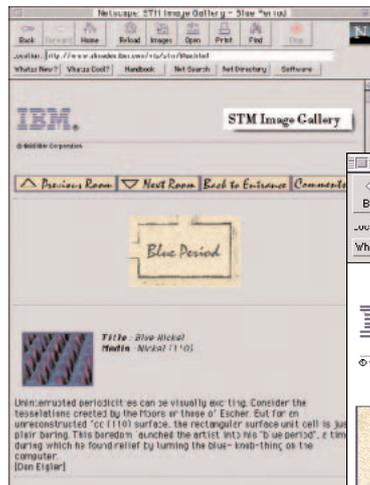
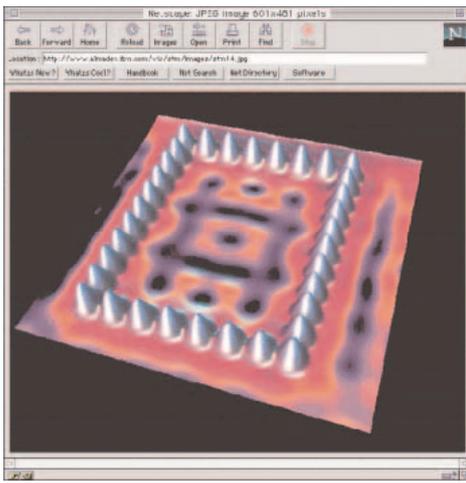
入ると、楽しいイラストの店内は超満員。リアルオーディオでマスターからのメッセージを聞きながら、あちこちクリックすると、いろんなものが出てくる。

インターネット初というゲーム、ビールについてのクイズ(ヒント付き)やショートストーリーなど、参加

すれば景品がもらえる太っ腹ページの数々。

トイレには落書きコーナーもあり、メールで投稿して品を損なわないとなれば、それふうのタッチでメッセージを書いてくれる。ついでに、ふだんは入れない異性のトイレの落書きが読めるという貴重な(?)体験もできる。

このほか、ビールの保存や作り方についてのティップス、ビールにぴったりのおつまみメニューからハート社のマーチャндаイズまで……。平たく言えばシアトルのビール屋さんのウェブページだが、ビジネスをどれだけ楽しく見せるかという意味では大成功だろう。



## 神様とヒトの合作？ 走査型トンネル顕微鏡で見る美しい原子の世界 STM Image Gallery

URL <http://www.almaden.ibm.com/vis/stm/gallery.html>

顕微鏡写真や、特にピジュアルコンピューティングと呼ばれるサイエンス系のCGには、科学とはまったく無縁の素人でもそれなりの美しさを感じることもできる不思議な魅力がある。米カリフォルニア州サンノゼにあるIBM アルマデン・リサーチ・センターの視覚化ラボが作成したこのページは、そんな魅惑的なアートを集めたライブラリーだ。

物質を原子レベルで見たり操作したりする技術のことを「アトム・テクノロジー」と呼んでいるが、これを飛躍的に前進させたのが1982年に開発された走査型トンネル顕微鏡（Scanning Tunneling Microscopy）。このホームページに収められているのは、その走査型トンネル顕微鏡をベースに作成した画像を集めた最先端のサイエンス・グラフィックスだ。

全体が古典的なアートを収集する美術館を模した形式で展示されており、ネーミングもなかなかお洒落だ。別のディレクトリには、分子ダイナミクスをはじめとしたさまざまなモデリングのためのシミュレーション画像やアニメーションが収録されており、専門用語が分からずとも、それなりに楽しむことができる。



## WWWで訪れる英国ウェールズ州の古城 The Castles of Wales

URL <http://www.wp.com/castlewales/home.html>

「趣味は？」と聞かれたとき、即座に「お城です」なんて答える人はあまりいないかもしれない。筆者の知り合いの中でも1人だけ、工業デザイナーでそういう趣味の人がいた。なんて変わった趣味と思っていたら、

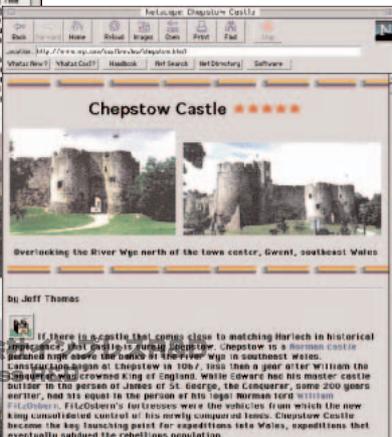
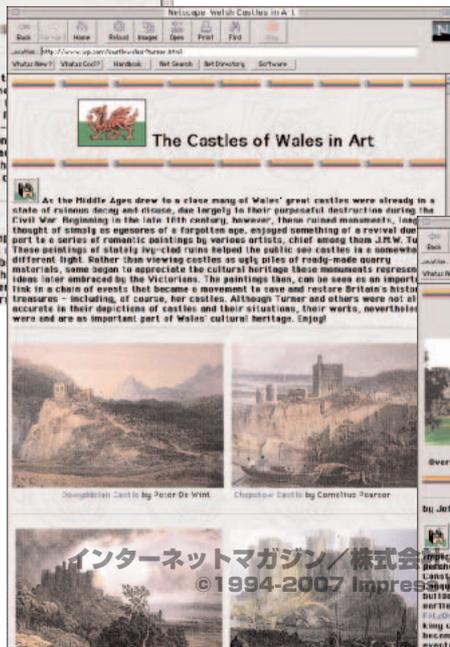
海の方には「キャスル・エンスーシアスト」という人がいて、しかもウェブ上に本格的なページを持っているとは……。

このホームページはジェフ・トーマス氏が過去数年の間に英国のウェールズ州を旅して集めたお城の写真や、それにまつわる資料の数々を収めたもの。収録された城の数は100以上、しかも主なものは5段階のマークで評価されている。様式や建築学的にみた工法、

建築家、歴史との関連、用語解説からクイズ、人気投票まで、かなりのエンスーぶりをうかがわせる内容だ。

なんでもウェールズ州は「Land of Castles」と呼ばれるほど中世の古城がまだ残っていて、ここを訪れる観光客も多いという。

なかなか落ち着いた風情のある写真はばかりで、こういう場所を訪ね歩き、歴史をひもとくというのめいり趣味かもと思いはめるのはトシのせい？



Adobe社のAcrobatを使ったFAX版のサービスなどを提供しながら、インターネット上の各社の取り組みをうかがっていた感のあるニューヨークタイムズが、いよいよ本格的に動き出した。紙面をほぼそのままウェブに載せてしまったのである。

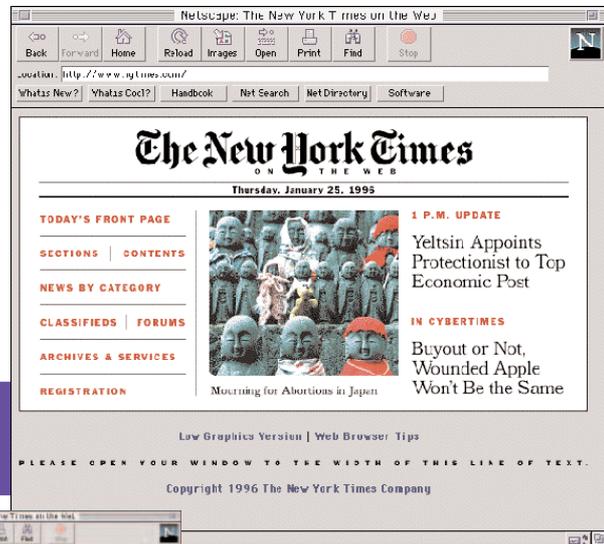
新聞本紙のレイアウトは若干変更されたものの、内容はフロントページから、エディトリアル、政治、アート&レジャー、旅行といったフルラインナップで、当然毎日更新さ

れる。また評判の高いクロスワードパズルはインタラクティブに楽しむことができる。

現在のところ、アメリカ国内からのアクセスについては無料だが、利用者は登録が必要で、国外からの利用については30日の無料トライアル期間を経て、購読契約が必要になる予定。また、過去15年間の記事を集めたアーカイブのサービスや、電子メールで毎日読みたい記事を配信してくれるクリッピングサービスも予定されているという。

なかでも注目なのは「クラシファイド・アド」と呼ばれる、求職案内や住宅案内を集めた小さな広告欄の検索機能。場所やベッドルームの数などを指定してやれば、たどるに検索結果が表示される。これは便利だ。

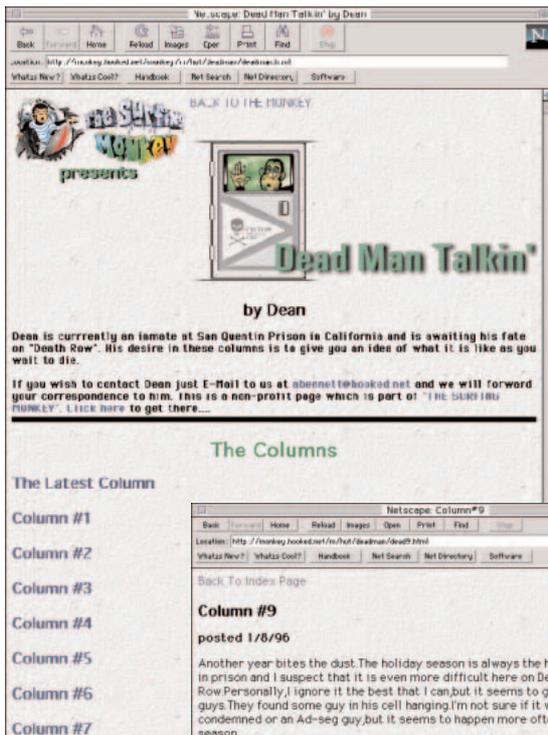
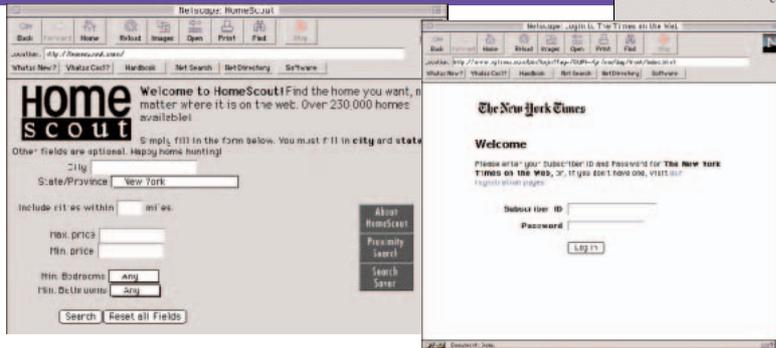
なお、ニューヨークエリア以外のアメリカ国内で住宅を探している人には、全米23万件以上の住宅物件と豪語する「HomeScout (<http://homescout.com/>)」もおすす



## ニューヨークタイムズの快挙 ほぼ全ページをウェブに掲載

The New York Times on the Web

URL <http://www.nytimes.com/>



一部写真もあるものの、このホームページは基本的には文章だけというさっけないもの。しかし、その中身はわれわれがこれまで体験したことのない強烈なメッセージだ。

文章の作者は、現在死刑囚としてカリフォルニア州のサンクエンティン刑務所に服役し、処刑を待っているディーンという囚人。とはいえ、も

ろく送りと注射のどちらの処刑方法を選ぶべきかなどが意外なほど淡々とつづられており、それがインターネットを通じてほぼ同時進行で世界中から読めてしまうところが怖い。

死刑執行がいつのことになるか不明なのに、メッセージの最後の署名のところに「later (またあとで)」と書いてあるのが意味深だし、この文章

## どう読むか？ 死刑囚からのインターネット上のメッセージ

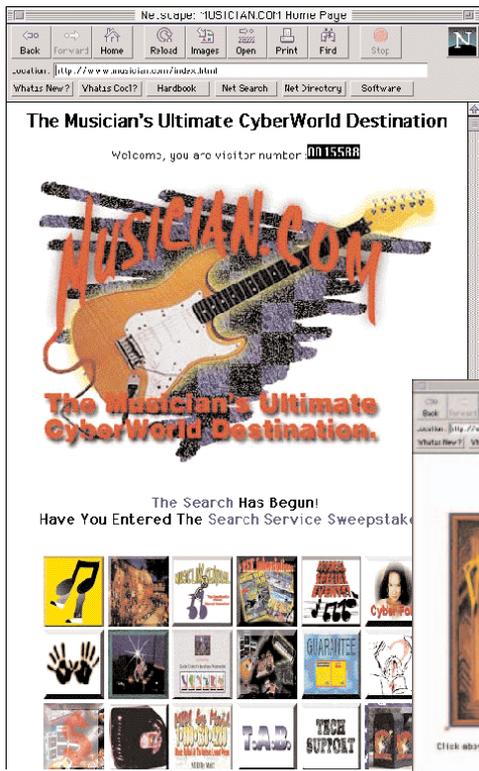
<http://monkey.hooked.net/monkey/m/hut/deadman/deadman.html>

独房からインターネットアクセスできるというわけではなく、実際のメッセージはタイプライターで書かれたものを再録しているようだ。

処刑を待ちながら新年を迎えた刑務所の模様、その時考えること、死刑のあり方、ガ

がアップデートされなくなった時が処刑の日なのかかもしれないと思うとまた……。

ディーンとコンタクトしたい人はEメールを出せば届けてもらうこともできるのだが、何と書いたらよいのやら考えさせられるページである。



ミュージック E-Zine より面白い 明日のスターミュージシャンのためのサイト  
MUSICIAN.COM Home Page

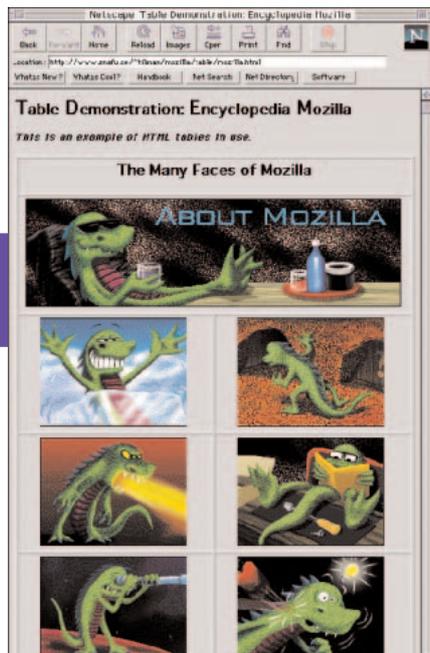
URL <http://www.musician.com/index.html>

全米に21店舗を持つ大型楽器販売店「ギターセンター」のホームページ。全米デビューしたいミュージシャンのためのサービスが満載だ。

バンドのメンバー募集といった情報交換データベースから始めて、自分のポートフォリオを1か月間ウェブ上に掲載して世界中に公開したり、契約関係の相談に応じてくれるページもある。

トでダウンロード可能)のほか、ビデオクリップ、MIDIファイル、音楽関係のサイトへのリンクなどもそろっている。

ミュージシャン志望というよりファンに近いというためには、ボ・ディドリーのギターからキスの履いていたハイヒールブーツなど、有名ミュージシャンのサイン入りグッズを集めたハリウッドの「スターウォーク」音楽版とも言えるページが楽しい。



ネットスケープ草創期のマスコット あのモジラくんが殿堂入り  
The Mozilla Museum

URL <http://www.snafu.de/~tilman/mozilla/>

WWWブームの立役者の1人、ネットスケープ社。彼らはブラウザのGUIに新しいセンスを持ち込み、さらに「モジラ」と呼ばれる緑色の怪物をマスコットにしたことでWWWの世界に新風を送り込んだ(一時はブラウザの商品名が「モジラ」になるという噂まであり、現在でもそう呼

ぶ人は少なくない)。それから1年ちょっと。しかし、世の中は大きく変わった。ネットスケープも“まっとう”な会社になり、ビジネスマーケットを意識したのが、お茶目なキャラクターもどこかへ消えてしまった……と思っ

た。このページは愛すべきキャラクター、モジラの美術館。一時期、同社のホームページに華々しく登場しながら、いつの間にか行方不明になってしまったモジラくんの雄姿を拝見することができる。それだけでも設立当初のネットスケープを知っているファンにはたまらないものがあるはず。

ルノワール、モネ、セザンヌなど印象派の画家の展覧会が開かれているホームページ。

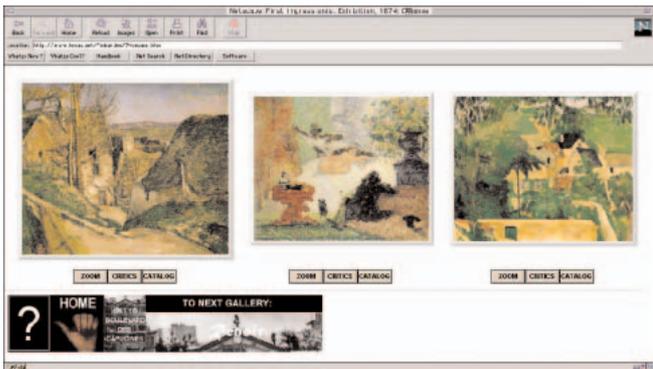
横スクロールを主に利用できるように絵がHTMLで埋め込まれているので、美術館と同じような感覚で絵を見ることができる。残念ながら点数はそれほど多くないが、それぞれの絵の下に「Zoom」や批評、カタログといったボタンがあり、

「Zoom」では絵を画面一杯に広げてみることもでき、批評のページでは絵を見ながら解説を読むこともできる。ブラウザによっては別のウィンドウを開くことも可能だ。

最近のウェブ上の美術展では、リアルオーディオで解説をしたり、フレームを多用したりするような手の込んだ演出をするものも多くなっている

が、これはこれで単純ながらもなかなか効果的である。

なお美術関係のホームページでは、定期的に新しい美術イベントをたどることができる「HeART Beat Site of the Week」(<http://www.netline.net/novus/museum/heart.html>)があるので、興味のある人はこちらも要チェックだ。



ウェブならではのインターフェイスで見る印象派美術展  
Welcome to The First Impressionist Exhibition, 1874

URL <http://www.texas.net/~mharden/74nadar.htm>

あまりに巨大化してしまい、サイト内だけでもサーチエンジンが大活躍という「Pathfinder」。その数多い雑誌をベースにしたページの中でも、ライフ誌は素晴らしいビジュアルで楽しませてくれる。現時点で収録されているの

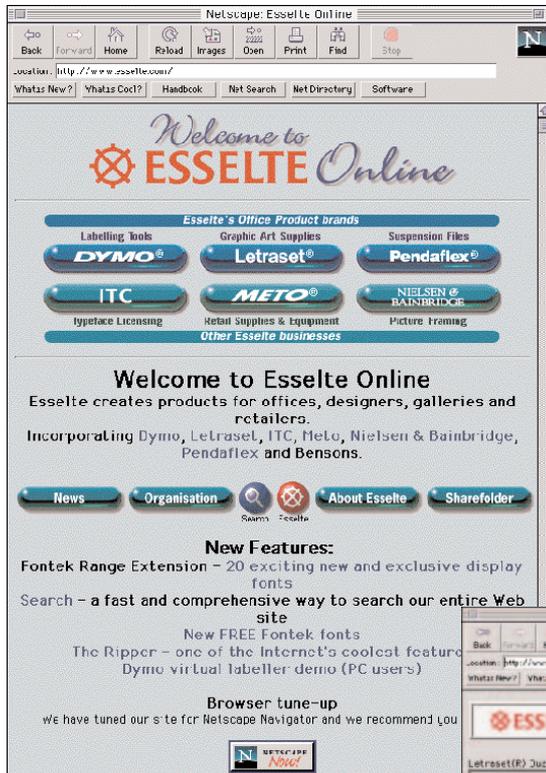
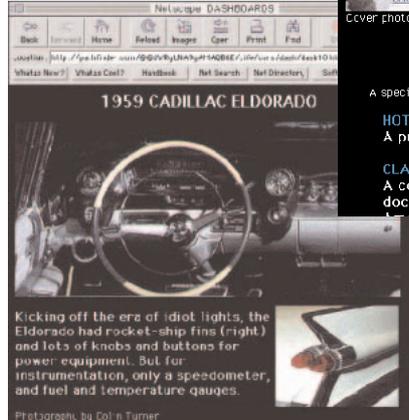
から昨年までの間にライフ誌が撮影した「クルマのあるアメリカの風景」、ライフ誌のカバーを飾った自動車関係のイベントや人物の写真などが、特に1927年のT型フォードから59年のキャディラック・エルドラドまでのダッシュボード

## たまにはメインストリームもチェック ライフ誌がとらえたアメリカのクルマと文化 Life Automobiles Homepage

URL [http://pathfinder.com/@5\\*1ShGEmgwAAQDaD/Life/cars/carhome.html](http://pathfinder.com/@5*1ShGEmgwAAQDaD/Life/cars/carhome.html)

は「キング牧師特集」や「写真で見る1995年」、「ロックンロール・ギャラリ」などが、クルマを中心にしたアメリカ文化に興味のある人なら必ずチェックしておきたいのが「アメリカ自動車の100年」というセクション。1月に発売されたコレクター・イシューから抜粋された写真と記事が掲載されているのは1901年

の写真は、現代の合理的なクルマにはない彫刻的な美しさがあり、意外と面白い。また、60年代のポンティアックGTOに始まったアメ車特有の大排気量V8エンジンチューン、マッスルカー文化にかむフォトエッセイも、アメリカ人がクルマにどんな夢を見ているかを思い知らされて興味深い。



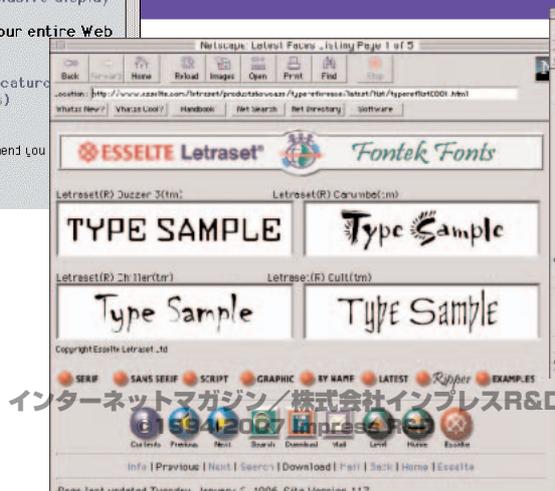
レトラセットやダイモ、バングフレックスといったデザイン、事務用品で知られるスウェーデンの会社、エッセルテのホームページ。レトラセットはフォント転写シートで有名なブランド。この業界の老舗で、次々に新しいセンスでデザインされる「Fontek Font」や楽しい絵文字の「Design Font」には定評がある。このホームページでは、こ

れらのフォントを順番に、あるいは名称で指定して表示することができるほか、「Ripper」というサービスではフォントとサイズ、さらにアンチエイリアスの有無などを指定し、自分の選んだフォントで十数文字のテキストを表示させることができる。タイプフェイスに当たりをつけたいデザイナーのフォント選びには最適だろう。また年に何種類かのフォントを無料でダウンロードできる

サービスも行っている。ただし、表示されているサンプルフォントのヒントをもとに、次々とフォントを見ていって探し当てたら全キャラクターを表示したあとにダウンロード……といったクイズじみたやり方だ。このほか「Background Texture」なども充実しており、デザイナーなら仕事の合間でも必ずアクセスしてみたいページだ。

## デザイナー必見！ 最新のレトラセットフォントをチェック Essette Online

URL <http://www.essette.com/>





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)